

令和2年度(2020年度)第2回吹田市高齢者生活支援体制整備協議会
委員意見(第1回目 令和3年2月19日締切分・2回目 令和3年3月12日締切分)及び事務局からの説明 一覧

意見番号	委員名	資料該当ページ(昇順)	意見内容 (令和3年2月19日締切分)	事務局からの説明	委員名	意見内容 (令和3年3月12日締切分)	事務局からの説明
1	A委員	資料1	地域版助け愛隊の検討がされているということですが、すいたの年輪ネット(以下、年輪ネット)からこの取組が地域に広がっているということは、今後に期待が持てることだと思います。 しかし、助け愛隊が広がれば広がるほど、依頼者とボランティアの調整が課題になるのではないかとと思いますが、今後この課題解決のために、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーの更なる強化や地域で活動する団体、あるいは年輪ネットの活用など、あらためて年輪ネットで検討することになるのでしょうか。	今後、高齢者の増加とともに、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためには、介護保険サービス以外の生活支援サービスが今後益々必要とされると考えられます。地域版の助け愛隊が市内に増える際には、その調整役として、地域の皆様や地域で活動する団体の方々の協力が必要であると思われます。委員の皆様には引き続き、年輪ネットでの活発な協議を積み重ねていただき、様々な提案をいただければと思っております。	E委員	助け愛隊の担い手側であるボランティアについては、福祉委員等の地域で活躍されている方々の活躍はあっても、一市民の活躍まで、まだ浸透していないと思われま。	令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため助け愛隊ボランティア養成講座の開催は中止としましたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況を見極め、可能な場合は感染対策を講じながら、開催をしていきたいと考えております。またコロナ禍のような災害に似た事態に見舞われた時こそ、普段の地域活動が土台となって、困難を工夫に転換し、人と人のつながりの再構築の素晴らしさを知っていただける動画の配信や今後、開催予定の市民フォーラムにおいて、担い手側の助け愛隊ボランティア活動等の紹介も含め、より多くの人に関心を持っていただけるように進めてまいります。
2	委員長 職務代理者	資料1	年輪ネットの取組(助け愛隊、アクティブシニア養成、オンライン支援等)が徐々に浸透し、地域で「参考事例」として捉えられてきています。「仕組みありき」ではなく、地域での議論～合意形成第一で取り組んでいきたいと思ひます。	各地域の小地域での地域課題に関しての意見は積み重ねによる合意形成が重要であると認識しております。今後も地域ケア会議との連動を重ねながら、地域包括支援センター、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーとも連携をとり地域を主体として側面的に支援してまいります。	F委員	当節の情勢下、高齢者層にとって、Web会議への対応やオンライン配信物の鑑賞等、通信手段を普及、通常化するため、高齢者の最も利用が多い、各地区の「高齢者いこいの間」へ、順次オンラインシステムの設置をお願いしたいものですが、いかがでしょうか。	オンラインを活用した、高齢者いこいの間の新たな施設運営について、今後の社会情勢を見ながら研究してまいりたいと考えております。
3	O委員	資料1	地域での高齢者生活支援に関する取組として、千三地区での買い物支援をサポートとありますが、内容の詳細を教えてください。	千三地区では坂の勾配等の環境要因及び加齢に伴う身体機能の低下により、買い物に行くことに苦慮しているという地域住民の声を、地域包括支援センターが把握しております。その課題の解決に向けて地区福祉委員の方、地域の方々、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー、広域型生活支援コーディネーター、地域包括支援センターとが検討を重ね、吹田市内を走る「とくし丸」という食品等を載せた移動スーパーによる販売を地域住民が体験するという企画を支援したものでございます。			
4	委員長	資料1	コロナ禍で地域活動が大きな制約を受ける中、広域型生活支援コーディネーターとして、「助け愛隊」の活動等今まで地道に取り組んでいる地域福祉活動の弱体化を防ぐ活動にことに、取り組んでおられます。加えて新しい活動の企画・実施(例:大阪大学の学生グループとのオンライン企画)に取り組む等、社会参加や高齢者の孤立予防に尽力されていることがよく分かりました。	コロナ禍のような災害時だからこそ、今まで地域で取り組んできた地域とのネットワークを活かした企画の実施につながったものと考えております。今後も世代を越えた取組が期待されています。			
5	C委員	資料2	五月が丘地区福祉委員の「よりそい隊通信」は、どの地区でも出来そうで、参考になりました。またオンラインツールの活用はとて良いと思うし、私も友達間で活用しています。	「よりそい隊通信」でも紹介されていますように、コロナ禍でも地域住民のつながりを支える好事例の取組を紹介する等、横展開を図ってまいります。また高齢者の孤立化を防ぎ、介護予防にも繋がるICTの利用支援につきましては、今後も進めてまいりたいと考えております。			

意見番号	委員名	資料該当ページ(昇順)	意見内容 (令和3年2月19日締切分)	事務局からの説明	委員名	意見内容 (令和3年3月12日締切分)	事務局からの説明
6	委員長 職務代理人	資料2	地域課題は日々変化します。コロナ禍で「つながりの在り方」が変化し、対面だけでなくオンラインツールでの「つながり」も増えてきました。オンラインツールに慣れない高齢者にとっては新たな地域課題と言えます。オンラインツール支援を取り組むには支援者(担い手)が必要です。会場までの移動支援も課題となるかもしれません。これまでの年輪ネットで議論してきた、担い手養成、移動支援等ともリンクさせ、総合的に多様な主体(住民・団体・企業等)と地域の高齢者生活支援を考えたいと思います。	コロナ禍の中、通常の「つながり」の方法を工夫し、オンラインツールを活かすことができました。大阪大学の学生グループによるオンラインツールの講座の開催については今回の意見聴取においても大変好評で、委員の皆様からも「自分の地域でも開催できるのではないか」との御感想もいただきました。しかしスマートフォンの購入が難しい方や講座開催の会場まで移動が難しい等の課題もあります。令和3年度の取組課題にも挙げております移動支援とあわせ、年輪ネットにおいて協議を進めてまいります。	H委員	オンラインツールは慣れないので勉強しなくてはと思っています。担い手不足で困っています。	オンラインツールの開催については委員の皆様からも、「自分の地域でも開催できるのではないか」との御感想をいただいております。担い手不足につきましては、地域の実情に合わせながら、委員の皆様、広域型生活支援コーディネーター、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーや地域包括支援センター等と連携を取り、コロナ禍でも感染拡大の予防も講じながら、地域元気アップ講座等の開催の検討を進めていきたいと考えております。
7	L委員	資料2	オンラインツールの講座、よりその木について、大学生、社会福祉協議会、地域とのコラボで、素晴らしいです。「スマホ持っているけど、まだ良くわからない」といわれる高齢者も多く、ゆっくり何度も教えてほしいのでいいですね。地域で行いたいと強く思いました。	「よりそい隊通信」でも紹介されていますように、コロナ禍でも地域住民のつながりを支える好事例の取組は、メディア等でも取り上げられ、高齢者の孤立化を防ぎ、介護予防にも繋がるICTの利用支援につきましては、今後も進めてまいりたいと考えております。			
8	M委員	資料2	今年度、コロナ禍で大学生が取り組んだ高齢者生活支援のように、支える側は高齢者だけでなく学生、社会人等、多様な主体が参画する視点を持つことで、高齢者を支える仕組みがより充実し、それが地域共生社会に大きく寄与するのではないのでしょうか。	今回の大阪大学の学生グループの取組は以前からの地域との交流の蓄積が土台となり、コロナ禍だからこそ、高齢者への手紙を通しての交流に、つながったものと考えます。学生を含む近隣住民のネットワークは、一朝一夕では構築することはできず、日頃からのあいさつであったり、ちょっとしたお節介事等の日々の積み重ねから、育まれるものであると考えており、日常のつながりを深める地域力の向上をめざしていきたいと考えております。			
9	A委員	資料2	「よりそい隊通信」による心の交流など、五月が丘地区福祉委員会と大阪大学の学生グループによる取組は、コロナ禍の中でピンチをチャンスに変える素晴らしい発想による試みだと思います。 世代の違いからくる発想の違いがあるのかもしれませんが、世代間の交流を通してお互いに刺激を受け、それが新たな行動に結びつくということで、あらためて五月が丘の取組から、世代を問わず交流することの大切さを思いました。	意見番号7参照			
10	I委員	資料2	現在、オンラインツールでの動画送受信が多くなっている中、今回の取組はとても良かったと思います。引き続き講座の開催ができ、オンライン活用により、独居の方の不安が軽減できればよいと思います。	意見番号7参照			
11	委員長	資料2	年輪ネットの活動をわかりやすく報告することで、今まで地域活動に無関心な高齢者の方の参加促進につながると良いと感じました。	今回市民フォーラムに代えて作成する動画をはじめ、引き続き地域住民への啓発・周知に取り組んでまいります。			
12	C委員	資料3	助け愛隊ボランティア養成講座の内容はよく吟味されていると思いました。	助け愛隊ボランティア養成講座の内容につきましては、年輪ネット及び作業部会の委員から意見をいただきました。委員のボランティア活動や委員が介護事業者である場合等の経験も踏まえる等、実践に生かすことができる内容としています。	委員長 職務代理人	助け愛隊ボランティア養成講座作業部会で、講座内容を確認されています。コロナ感染防止対策を行い、講座の開催をしてはどうでしょうか。	新型コロナウイルス感染状況を見極め、可能な場合は感染対策を講じながら、助け愛隊ボランティア養成講座を含め、すいたの年輪ネットで検討された取組を進めていきたいと考えております。

意見番号	委員名	資料該当ページ(昇順)	意見内容 (令和3年2月19日締切分)	事務局からの説明	委員名	意見内容 (令和3年3月12日締切分)	事務局からの説明
13	委員長 職務代理者	資料3	年輪ネットの特徴の一つが作業部会を組織して細かな議論をしていることだと思います。多様な出身母体の委員が集うことで、今回も新たなアイデアや方法、役割分担を検討できました。結果的には講座開催には至りませんでした。次回につながる作業部会だったと思います。	新型コロナウイルス感染防止のため、今年度の助け愛隊ボランティア養成講座を開催することはできませんでした。作業部会では、委員の皆様から貴重な御意見をいただきました。今後の助け愛隊ボランティア養成講座で内容を盛り込み、実践につなげてまいりたいと考えております。			
14	L委員	資料3	助け愛隊ボランティア作業部会について、ボランティアとして作業して下さる方の補償、保険などのサポートが必要と思います。	助け愛隊ボランティア活動は、吹田市社会福祉協議会のボランティア保険に加入しております。			
15	I委員	資料3	助け愛隊ボランティアの活動はこのコロナ禍で本当に大変だと思います。助け愛隊ボランティア養成講座ではボランティア活動をする中での経験を聞くことも必要だと思います。	意見番号12参照			
16	N委員	資料3	助け愛隊の活動や養成講座の内容がよくわかりました。助け愛隊の活動は、相談者の依頼解決のみならず、それ以外の困りごとの解決にも一役買っていることを知り、頼もしく感じました。養成講座の内容も充実しており、作業部会では、専門職だけではなく市民委員が参画されているのが良いと感じました。	意見番号12参照			
17	委員長	資料3, 4	コロナ禍で自ら感染リスクもある中で、年輪ネットの委員の皆さんが積極的に会議に参画いただいたことに、深い敬意の念を感じました。コロナ禍でできないことを憂い嘆くだけでなく、新しい生活様式に沿った活動をご検討をいただきまして、本当にありがとうございました。	吹田市高齢者生活サポートリスト「生活支援サービス編」の作業部会はオンラインにて開催する等、コロナ禍における新しい運営方法に取り組みました。			
18	委員長 職務代理者	資料4	吹田市高齢者生活サポートリスト「生活支援サービス編」の作業部会も、年輪ネット委員と開催したことで、様々な意見やアイデアが出ています。昨年度の年輪ネットで議論した移動支援も改訂に合わせて情報掲載するなど、過去の議論が生かされていることを感じています。	吹田市高齢者生活サポートリスト「生活支援サービス編」の作業部会はオンラインにて開催いたしました。移動支援の情報につきましても、改訂にむけて調整を進めているところでございます。			
19	I委員	資料4	吹田市高齢者生活サポートリスト「生活支援サービス編」は住民も活用できるようになっており、自身で選んでいただけるので、今後は活用していきたいです。今までは事務所内のパンフレットや他の職員に聞き情報を提供してきました。	吹田市高齢者生活サポートリスト「生活支援サービス編」は令和3年5月頃の完成を目指して作業を進めています。市民、民生委員等の地域の支援者、介護事業者の方々に活用していただけるよう周知に努めていきたいと考えております。			
20	C委員	資料5	市民フォーラムの代わりに動画配信の内容は素晴らしいと思いました。でもこの動画を見ていただけの方がどれだけののかと思いました。内容を知ってほしい人達にはなかなか届きにくいので、機会ができる度に少人数の場でも映像として流してほしいと思いました。	動画配信は令和3年3月下旬から約1年間吹田市のホームページにアップして配信し、地域での交流の場等でも、活用していただきたいと考えております。広報については、市報掲載やチラシ作成等を予定しております。			

意見番号	委員名	資料該当ページ(昇順)	意見内容 (令和3年2月19日締切分)	事務局からの説明	委員名	意見内容 (令和3年3月12日締切分)	事務局からの説明
21	委員長 職務代理者	資料5	30分の動画で「リアル」な市民フォーラムと同等の成果を得ることは難しいです。しかし「いつでも」「どこでも」フォーラムの内容を共有できるメリットもあります。作成した動画を地域で活用する場の設定(研修、地域での検討会等)も重要だと思います。	短時間の動画で市民フォーラムの効果は難しいかもしれませんが、コロナ禍でも取組を進めている地域の貴重な活動を、市民の皆様に御紹介できるのではないかと考えております。また今後、地域の交流の場等でこの動画を視聴していただくことで、地域活動のエールともなり、コロナ禍で途絶えていた活動の再開や新たな地域交流の場の創出に繋がっていくことを願っております。			
22	L委員	資料5	動画作成の目的について、是非、動画の中に入れてもらいたい。コロナ禍で人と会えない、話せない状況が続いて消化不良を起こしています。新崎委員長の動画もわかりやすく、動画配信の内容で元気が湧くようになればと思います。	動画配信する際には、目的等をわかりやすくお示しする等、工夫してまいりたいと考えております。また普段の暮らしの幸せや、住民同士のつながりの大切さが伝わるような動画となるように作成に取り組んでいるところです。			
23	M委員	資料5	動画配信の作業目的にも記載しているように、高齢者がいきいき、笑顔で生活してもらうためには、住民の想いや気づきに基づいた仕組みづくりが大切だと思います。専門機関の想いが先行したり、システム化することを優先しないよう、丁寧に働きかける必要があると思います。	高齢者がいきいきと笑顔で暮らせる生活をしていただくために、市としても住民の想いや気づきを大切に、今後も地域ケア会議との連動を重ねながら、地域包括支援センター、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーとも連携をとり地域を主体として側面的に支援してまいります。			
24	I委員	資料5	コロナ禍前までは、活動力はかなり変わっていると資料を見て気づきました。頑張って工夫されていて、すごいと思います。高齢者の集いの場がなくなることで、居宅の利用者の方も精神面での不安を感じている方が増えています。認知症が悪化する例もありました。	コロナ禍で地域における身近な集いの場等が、長期間にわたり開催自粛が続いていますが、地域では繋がりを継続するために様々な工夫をされています。地域活動への参加や生きがいを持った活動をすることが、高齢者自身の健康寿命を延ばし、地域の見守りや支え合いに繋がることについて啓発を進めていきます。	H委員	地域で見守り続ける中で、ゴミ屋敷化になっている独居の高齢者の家が数件あります。今まで集う場があったのに、コロナ禍で家に閉じこもり、人との交流がなくなり、不安な日々を過ごされています。認知症にもつながっていくと思います。	コロナ禍で地域における身近な集いの場等については、長期間にわたり開催自粛が続いていますが、地域では繋がりを継続するために様々な工夫をされています。コロナ禍のような困難に見舞われた時にこそ、民生・児童委員や地区福祉委員、自治会を始めとした地域住民の皆様が長年積み重ねてこられた地域活動の力が土台となり、細やかな声かけや見守り等のネットワークの継続につながっています。このようなネットワーク活動の工夫や展開が促進され、地域の皆様の参画が広がるよう、広域型生活支援コーディネーターや社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー、地域包括支援センター等が地域との連携、協働に取り組んでまいります。
25	K委員	資料5	先日、公園にでかけた際に、高齢男性が少年野球をおひとりぼんやり眺めておられました。池のほとりのベンチでも一人座っておられる高齢男性を見かけました。私の思い過ぎかもしれませんが、あの方達は今日は誰かとお話したのかなと、今どんな気持ちなのかなと、何とも言えない気持ちになりました。新崎委員長のDVDの中に、一週間はほとんど会話しない高齢男性18%、女性12%という数字がありました。高齢者の孤独の現状を改めて実感しました。DVDはとても分かりやすかったです。その中で「市民参加から市民参加そして市民参画へ」という言葉がありました。耳より情報局の資料には高齢者支援は「みんなで」「我がごと」として取り組むとありました。誰でも年齢を重ねますが、自分が高齢になるまで自分ごととして考えにくいと思います。市民フォーラムの代わりに動画は高齢者支援の検討会や研修会で活用されるとありましたが、幅広い方に見ていただくことで少しずつ意識が変わっていくかなと思いました。	今後、高齢者の増加とともに、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためには、地域包括支援センター、社会福祉協議会(CSW)等が連携し、住民等による生活支援が今後益々求められると考えられます。委員の皆様には引き続き、年輪ネットでの活発な協議を積み重ねていただき、様々な提案をいただければと思っています。			

意見番号	委員名	資料該当ページ(昇順)	意見内容 (令和3年2月19日締切分)	事務局からの説明	委員名	意見内容 (令和3年3月12日締切分)	事務局からの説明
26	委員長	資料5	3月に予定されていた「市民フォーラム」が、コロナウイルスによる新型コロナウイルス感染拡大急増のために、中止になったことはとても残念でしたが、それに屈することなく動画配信・DVDの作成に切り替え、「離れていてもつながり続ける」実践に取り組みました。対面での活動が厳しい制限を受けている状況のなかで、今できることの最大限のことを行いたいといった思いで取り組みました。今後もコロナ禍の影響が続くような状況で、今までの年輪ネットが取り組んできた活動を後退させないために有効な取組であったと考えます。	意見番号21参照			
27	M委員	その他	近年、高齢者を支える支援として、専門機関が行うサービスと共にボランティア等による活動が注目されています。支援する内容は同じでも、活動には、無償の愛が含まれており、その愛を高齢者支援にかかわる支援者が大切にできる風土づくりをこの年輪ネットを通じて実施できればと思います。	公的支援と住民活動を組み合わせた仕組みが、地域での豊かな生活に繋がっていくものと考えております。			
28	D委員	その他	この1年すべてのボランティアの方々が会場も使えず自粛ということはこんな風になるのかと実感した年となりました。多種多様なボランティアをしている関係で、電話、メール、オンラインツールでの相談が多く、特に高齢者の方、ご家族の方からも戸惑っているメールを多くいただき、あちらこちらの窓口に繋がりました。コロナ禍で引きこもりとなり、QOLが下がった高齢者を支えている家族も困って疲れています。年輪ネットの活動、助け愛隊ボランティアが高齢者社会を支える大きな力になっていると思います。ひとりひとりが少しでも自立した社会を目指して応援していきたいと思っております。	意見番号24参照			
29	F委員	その他	吹田市高齢クラブ連合会(以下「吹高連」という)では「高齢者福祉は高齢者の手で」をモットーに新崎委員長がいつも提唱される「アクティブシニア」の集団として活動を続けております。そのために、今年度は吹高連組織を単なる地縁住民団体から一般社団法人吹高連として法人化し、社会奉仕活動に貢献ができればと考えております。吹高連吹三地区では区内高齢者の困りごとを援助すべく「何でもやろう会」を数年来続けており、社会福祉協議会とも連携して家具の移動、植栽の手助け、器具の修理他、細々と続けている状況です。今後、これも助け愛隊と合流して活動を進めることになると思います。令和3年度では、吹高連社会奉仕活動の重点項目として「バリアフリー作戦」を展開いたします。幼児、児童、障がい者、高齢者にとって身近な危険個所を12,000人の会員の目で市内、隅々まで見わたせればと考えています。効果は未知数ですが、吹高連としては、期待を寄せているところです。	助け愛隊のような活動が、地域版として各地域で展開することが今後重要であると考えている中で、すでに吹三地区においては、数年前に「何でもやろう会」を立ち上げられています。今後の活動については、地域包括支援センター、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー等とも連携をとりながら、地域住民や地域団体による話し合いの場を継続していくことが重要であると考えております。			

意見番号	委員名	資料該当ページ(昇順)	意見内容 (令和3年2月19日締切分)	事務局からの説明	委員名	意見内容 (令和3年3月12日締切分)	事務局からの説明
30	G委員	その他	<p>民生委員として日々、声かけ見守り活動を行っています。が、コロナ禍によって、高齢者の引きこもり、孤立からの孤独を感じ、精神的にバランスを崩し認知症状が現れる事例も出ています。</p> <p>この度の講演(DVD)での開催内容を拝見させて頂きまして、公助、共助、近助、自助の4助により、無関心をなくし支え手と受け手が手を携えて、丸ごと繋がっていくこと、共に歩んでいくことの大切さを改めて感じました。一人ひとりが安心して暮らせるためには、生きがいづくり、居場所づくりができる様に取り組みます。『夢を失ったとき、はじめて老いる』青春は、若き精神のなかにこそある』心に沁みました。</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため、地域での話し合いや住民活動が控えられ、高齢者が社会参加したり、他者との交流機会が少なくなる中で、高齢者の機能低下を防ぐことは大変重要であると考えております。</p> <p>令和2年度の年輪ネットの取組は、「コロナ禍においても取り組める活動」に向けて方向転換をいたしました。大阪大学の学生グループが以前からかかわりのあった五月が丘地区福祉委員会とともに見守り活動の一貫として、大学生が書いた手紙を高齢者に読んでいただくという交流をしました。また大和大学も山手地区において手紙の交流やフレイル予防の周知を検討し、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー等、広域型生活支援コーディネーターが連絡調整を行いました。</p> <p>「元気・健康フォーラム2020」動画作成においては、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」のためには、住民の思いや気づきを基に、専門職と一体となって仕組みづくりを進めることが必要であると伝えていきたいと考えております。</p>			
31	H委員	その他	<p>無関心をなくし、高齢者も一緒に参加できるようにしていけたら、一人暮らしの方の寂しい心が少しはなごむのではないのでしょうか。ボランティアは年齢制限がなく、だれもが主人公になれる節度ある仲立ち、目配り、気配り、心配り等、他人の困りごとと一緒に解決できたらいいと思います。私達も生きがいづくり、居場所づくり、情報収集など地域で安心して暮らせる様に活動していきたいです。</p>	<p>コロナ禍での暮らしにおいては、世代を問わず、外出や人との交流を自粛せざるを得ない状態となりました。このような時だからこそ、ちょっとした気遣いや声かけが、生活に潤いを与え、日々の生活を豊かにしていくものであると考えております。</p>			
32	J委員	その他	<p>コロナ禍でも、自治会によって安否確認等を行い活動されている地域もありますが、住民同士の繋がりができていない自治会もあると思います。災害時でも自治会によって差がでると思うのです。各自治会がどのように活動しているのか一部だけでなく、全体的に知りたいです。自分の住んでいる自治会の活動を知らない住民も多いと思います。</p>	<p>地域の特性に合わせて各自治会等がそれぞれ安否確認等の活動をされています。自治会の情報発信の取組については、吹田市のホームページ上に、自治会のホームページや広報物等を掲載するスペースを設けました。今後、積極的に活用していただきたいと考えております。</p> <p>(市民自治推進室より確認)</p> <p>自治会に限らず、各地域団体による住民同士の交流について、各地域団体と連携しながら、地域包括支援センター、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー等と共に取り組んでいきたいと考えております。</p>	H委員	<p>民生・児童委員としてふれあい昼食会を担当していますが、コロナ禍でできなかったため、9月より外出配食を各自治会に分かれて取り組みました。今まで参加できなかった方々が大量に参加していただいています。97歳の方もいます。各自治会で取り組んだのが良かったと思います。社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーの方々の力添えに感謝しています。</p>	<p>地域の皆様の工夫と発想の転換で、ふれあい昼食会も外出配食に発展させて実施され、新たな人とのつながりも生み出しておられます。民生・児童委員からは、「コロナ禍で相談も増えたが、これまで相談してほしいと思っていた方が自ら相談に来られるなど、今まで地道に声をかけたことが、成果となって表れている。」と実感されています。引き続き、地域住民の皆様、広域型生活支援コーディネーター、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーと連携を強化し、域包括支援センター等の協働のもと、広く情報提供していくことが、効果的な取組について重要なことだと考えております。</p>